

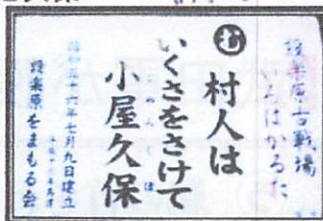
## 【小屋久保と戦いの目撃者】新城市出沢七久保



・戦いの戦火を避けて、戦場に住む多くの人が、かんぼう山の中腹の【小屋久保】に避難していた。今でこそ杉林で決戦場の設楽原はあまり見えませんが、戦い当時は草刈山で戦場の様子が一望できたと思われる。住民がかたずを飲んで目の前の闘いの成り行きを見た事でしょう。

長篠合戦屏風の志村又右衛門と山縣昌景の構図描写のリアルさにも繋がっているように思える。戦が終息し帰路につく村人の胸中は、如何ばかりかと想像します。

⇒ ⇒ 小屋久保に立つ看板



**小屋久保高台登り口(出沢口)**  
この付近一帯は「設楽原の戦い」の際に住民が避難した通称「小屋久保」です。これより二・五分程登ると小屋久保高台(看板等有り)があります。  
昭和六十二年七月九日建立  
平成三十年改訂  
設楽原をまもる会

## 【小屋久保へのタイムスリップ】:出沢七久保雁峰山中腹(小屋久保)が狼煙を上げた場所付近

決戦場まつり平和祈願隊が上げる狼煙⇒

② 村人は  
いくさをさけて小屋久保  
・出沢 七久保



- ・この場所へは、花の木公園の近くの、七久保から林間に行く方法と、本宮山中腹と、中央からは【長篠・設楽原パーキング】からの方法の3通りがあります。
- ・いずれも雁峰山の林の中を、車で走行する事になります。
- ・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎重正が、のろしを上げたと伝わる【涼み松】と、【のたば】の史跡があります。
- ・信長と家康への謁見後の帰り道が、二人の運命を分けました。
- ・鳥居強右衛門は、長篠城外の篠場野で磔刑になりました。君命に殉じた、強右衛門の潔さは武士の手本と持てはやされました。
- ・鈴木金七郎は、武士を捨てて、作手の田代へ帰農しました。

・新城市東郷自治区製作の  
イラスト かんぼうや ネコ武将 モッセッセ



## 【武田軍が設楽原に進軍を開始する】

③ 鶺鴒の首をわたりて  
押し出す武田勢

・出沢 橋詰



- ・出沢地区には、名勝【鶺鴒の首】【鮎滝】【猿橋】と呼ばれる深い渓谷がある。長篠城を囲んでいた武田軍は、武田流の技術で架けられた【鶺鴒の首】の栈橋を渡河して、織田・徳川連合軍が、馬防柵を築いて待ち受ける決戦場の設楽原へと進軍を開始した。この場所は翌21日の決戦に負けた、武田軍の退路の道筋であり、【橋詰】では、多くの死闘が繰り広げられた。名将馬場信房の戦死地【緒巻桜】もこの近くである。

- ・武田勝頼は、設楽原の弾正山に現れた織田・徳川連合軍軍を前にして決戦の前日に、領国の家臣の三浦右馬助宛てに送った手紙には、自信に満ち溢れた内容とも思われる文面が見受けられます。

### 【敵失行之術 一段逼迫之体 遂本意】

- ・敵は、手立てを失い、一段とひっ迫して柵にとじこもっている。これを好機と捉えて、今こそ撃ち掛かり念願を叶えたい。
- ・武田勝頼は、乾坤一擲の大勝負に出た。押し太鼓と共に、武田軍に一斉突撃を命じた。織田・徳川連合軍との死闘が開始された。

\*\*\*\*\*

\* おなじ頃書かれた、もう1通の武田勝頼の手紙には勝頼の優しい一面が伺えます。

手紙は、おそらく長篠攻め医王寺本陣から、親しい女性に出されたものだと思います。



『機嫌いかがお過ごしですか、そればかりが心にかかり、そなたのことを思い続けています。入梅のことで油断なく養生することが大切です。』

・残念ながら切封で宛名不明：東京大学史学編纂所が所蔵

【武田勝頼の不運】・信玄時代に豊富に掘り出された甲州金が勝頼の時代には、枯渇して来た・軍資金不足か？津具金山



【大宮川】【五反田川】も戦いに重要な役目を果たした。

⑥ 井戸がわり  
大宮川で湧きやす

・東郷中学校  
西200m



・設楽原には、雁峰山を水源として豊川に注ぐ3本の川があります。連吾川はその中央を流れる川で最も重要な役目を果たしました。織田・徳川連合軍は、馬防柵を右岸に築き進軍を阻みました。西側の  
大宮川は、連合軍3万8,000人の兵站用として飲み水の重要な役割を果たしたと思われます。東側の五反田川も、武田軍に取りまして兵馬の飲料水として必要な川でした。武田軍は、この戦いに1,000頭余りの馬を連れて来たと言われていますので莫大な水を必要としました。

・大宮川には、万が一に備え馬防柵が重要地点に築かれました。

一重柵  
(大宮川)  
設楽原をまもる会

石亀からの手紙  
わたしたちも、ずっと昔からこの川の周りで暮らしてきました。何百年も何千年も……でも、近頃、急に住みにくくなりました。上の土へあがれなくて、困っています。わたしたちは川だけでは生きていきません。人間の皆さん、わたしたちも一緒に仲よく暮らしたいのです。  
平成23年 早春の日  
四反田川カメの会

石亀は、日本の固有種です。食べ物は、雑食性。産卵は夏、水辺近くの土。

⑥ 井戸がわり  
大宮川で  
湧きやす



五反田川

・連吾川の竹広激戦地に立つ説明看板

し たら が は ら  
設 楽 原 の 戦 い

天正3(1575)年5月1日、武田勝頼は1万5千の兵を率いて長篠城をとり囲んだ。城主奥平貞昌は城兵5百とともによくこれを防ぎ、14日、鳥居勝商の決死的な脱出により、織田、徳川の援軍を得ることに成功した。20日、武田軍は3千の兵を長篠城の押さえに残し、織田、徳川連合軍3万8千の布陣するこの設楽原に進撃した。

戦いは5月21日(陽暦7月9日)連吾川(左)をはさみ、織田、徳川の鉄砲隊と武田の騎馬隊が壮絶な戦闘をくり返した。多数の鉄砲と馬防柵の前に武田軍はほとんどの勇将、智将を失う惨敗を喫し、勝頼はわずかの兵に守られて甲州へ落ちのびていった。

新城市教育委員会



## 【織田信長戦地本陣地茶臼山】

### ① 信長の陣

茶臼山に歌碑もあり

・信長本陣跡  
牛倉茶臼山

・織田信長は、5月18日に設楽原に到着すると、極楽寺で軍議を開き決戦場の布陣を敷いた。織田信長は本陣を茶臼山に置いた。

・ここは家康が陣を張った、弾正山から1<sup>キロ</sup>強の地点で、戦況によっては何時でも戦場から離脱出来る位置です。

・『狐なく 声もうれしくきこゆなり 松風清き 茶臼山かね』・戦いに臨んで、密かな自信の現れの句とも読み取れる歌を詠みました。



## 【織田信長の本陣地へのタイムスリップ】

長篠設楽原パーキング

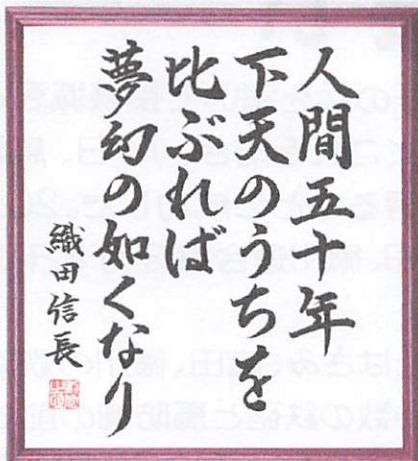
新城市牛倉字城山:茶臼山稲荷境内



・織田信長の戦地本陣は、決戦場の設楽原とは少し離れた位置です。この時点での信長は、最前線で戦闘をするのは、部下に任せるという立場になっていました。

極楽寺で軍議を少し進んだ【茶臼山】に本陣を敷きました。

織田信長は、【長篠・設楽原の戦い】の7年後の天正10年6月2日に京都本能寺で明智光秀の謀反により49歳で没します。好んで舞ったと云われる【敦盛】の歌詞そのものです。



# 着陣

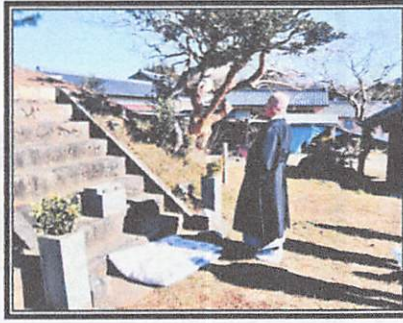
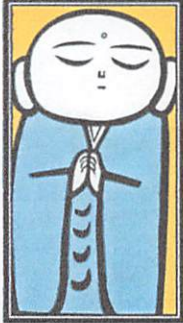


・長篠設楽原パーキング裏側からは、新城の街並みを眼下に見る事が出来ます。毎年8月13日には、見晴らし台があり、【新城の桜淵の花火】を見る絶好のポイントです。

## 【信玄塚】

### 【甲軍戦没将士の供養塔】

昭和13年山梨県民他の浄財で建立されました。



### 【供養塔へのタイムスリップ】:鉄製のサークル棒がありません 信玄塚広場には五基の供養塔

- ・昭和13年5月21日に、山梨県内外の有志により、高さ360㍍基礎石150㍍の山梨県産の花崗岩で【長篠役甲軍戦没将士慰霊塔宝篋印塔】が建立されました。
- ・横の副碑には、長篠・設楽原の戦いの模様が588文字で刻まれています。裏面には、基金協力者184名・14団体と発起人名が彫られています。供養塔のサークルの鉄棒は、太平洋戦争中に鉄材の供出で提供され現在迄ありません。
- ・昭和31年3月24日に、山梨県韮崎市により、武田将士の英霊が韮崎市の【新府城址】に分骨されました。韮崎市により【長篠の役甲軍陣没将士分骨碑】も建てられています。

### 昭和31年3月24日の盛大な分骨式写真



## 【首洗池】

場所国道151号線竹広交差点の横

◀ 首洗い池は  
血色に水にごる

・三河東郷駅北  
信玄塚東

- ・文献によっては、過去に【血洗池】【刀洗池】と云われていた記録がありますが、現在は【首洗池】です。何れも当時の戦いの激しさを思い起される名前です。今でも池の水は赤く濁っています。戦い後戦没者を信玄塚に埋葬する為に、武具や戦没者を洗い清めた為だと云われています。しかしこれは、鉄分を多く含んだ赤土の土壌が原因です。

設楽原古戦場  
いろはかるた  
首洗い池は血色に水濁る  
昭和五十六年七月九日建立  
設楽原をまもる会



## 【首洗池へのタイムスリップ】:池の鯉を覗いてみよう!

新城市竹広字高原地内

首洗池の蓮の花➡



- ・首洗池は、もつくる新城の道の駅から、車で5分程の、竹広交差点の手前の場所に在ります。古くは柳の木が茂り、ヒルが多くいて気味の悪い池でしたが、現在は、桜の木と蓮の花により素敵な憩いの池に変わっています。
- ・設楽原の決戦が終わり、周辺の両軍の遺体処理を、この池で行ない兵士の身体を清めて信玄塚に埋葬したと云われます。
- ・大将首は、この近くの聖堂山勝楽寺で【首実検】がなされました。織田信長は、【松楽寺】を勝利に因んで、【勝楽寺】に変えたと伝わります。

首洗い池に立つ看板👉

## 首 洗 池

長祿の戦いの時、この池で戦死者の首を洗ったという。

このような地名が残ったのは、戦いがいかに壮絶であったかを想像させる。

近くに、戦死者の霊を弔った「信玄塚」が有る。

昭和57年3月30日 新城市教育委員会



【山縣三郎兵衛昌景の墓】  
 設楽原に倒れた戦国の武将

や

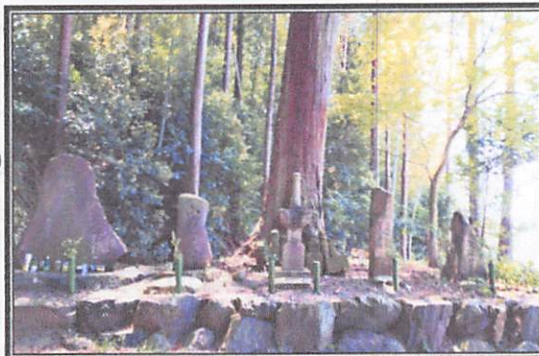
山縣の最期

・山縣昌景の陣地・墓  
 竹広 火踊坂

胴切りの松に秘め



・山縣昌景は、武田4将の一人で合戦の時は黒字に白桔梗の旗指物をなびかせて赤備の隊とて戦場を駆け巡った猛将です。徳川家康の陣地前の【竹広激戦地】のこの場所で火縄銃に討たれ、壮絶な最期を遂げました。⇒火おんどり坂にある山縣昌景一族のお墓



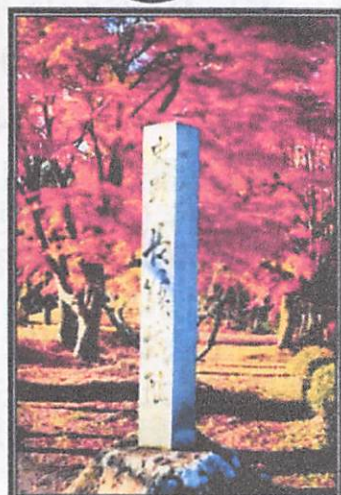
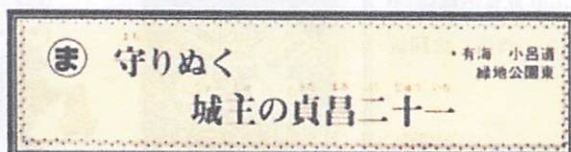
【山縣昌景の塚へのタイムスリップ】:火おんどり坂の途中  
 場所 新城市竹広字山形498番地

- ・武田軍の猛将の山縣昌景は、馬防柵を築きまち受ける、徳川家康家来の大久保忠世・忠佐兄弟に果敢に、騎馬で9度突撃を繰り返し奮戦しましたが、最後は大阪新助に兜のこめかみを撃たれ力尽きました。  
 長篠合戦屏風に、被官志村又左右門が、主人山縣昌景の首級を大切に抱えて自軍に戻る様子が描かれています。
- ・墓の中央の【山縣墓】と彫られた碑は、江戸時代の三河絵図の中にも描かれています。長男の甚太郎昌次、名取又左衛門、高坂又八郎の3名の墓が寄り添うように祀られています。
- ・墓の左の一際立派なお墓は、大正3年に、長篠の戦い顕彰会により建立された物です。
- ・最近になり、山縣昌景の首級は、被官志村又左右門により菩提寺の、山梨県の天澤寺に手厚く祀られていることが解りました。  
 ・山梨県天澤寺の小浦住職と山縣昌景公墓👉



## 【長篠城】

### 【長篠城址本丸跡】



・長篠城は、永正5年(1508)田峯菅沼氏の一族、菅沼元成によって築かれた城で、信濃、遠江、三河と接する境目の場所で、交通の要所に在り、今川家と武田家と徳川家の勢力が、互いに激しい争奪戦を繰り広げた城です。

・寒狭川と宇連川が合流する要害の地に築城された中世の平山城で長篠の戦い当時は、武田軍が1万5000人の兵で包囲し猛攻を加えましたが、城主奥平貞昌が500の城兵で死守し30倍の敵にも耐えた難攻不落の城でした。現在長篠城址内をJR飯田線も走っている。

## 【長篠城へのタイムスリップ】：回廊を廻ってみよう！

保存館回廊の展望筒⇒

場所 新城市長篠城址



- ・武田勝頼は信玄公の、【三回忌】を4月12日に躰躰ヶ崎の館で執り行い満を持して【三河の東の要：長篠城を攻撃した】、そこは武田家を寝返えり、徳川家康の家臣となった、作手亀山城の城主であった【奥平貞昌21歳】が守っていました。
- ・5月14日に、武田軍の猛攻撃で、弾正郭と二の丸(食糧庫)を奪われてしまった。此処での戦いで、武田軍は800人の戦死者を被ったと云われています。
- ・本丸のみを残す事になり、食糧も僅か3日ほどになった城主奥平貞昌は、援軍要請の使者を、鳥居強右衛門と鈴木金七郎の二人に託します。梅雨明けまじかの、豊川の激流を泳ぎ下り、カンボウ山で狼煙を上げ岡崎城へとひた走ります。

・岡崎への使者は同時説、別行動説もあります。



武田勢突入  
五月十四日



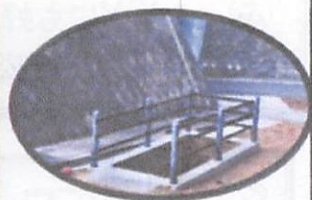
【武田諸将訣盃跡】(清井田に2箇所) 清井田 八束穂字清水ヶ入

・武田軍が、長篠城から決戦の地を目指して進軍し、丘を越えた場所が、清井田の地です。ここは、新東名高速道路により大きくロケーションが変貌した。道の駅【もっくる新城】ができて、新城インターのランプウェイにより、清水寺の井戸等も当時の面影が変わりました。

設楽原古戦場  
いろはかるた  
① 訣盃の跡  
清井田に  
清水わく  
昭和五十六年七月九日建立  
設楽原をまもる会



清水寺井戸  
設楽原へ向った武田、山縣昌景の陣地をめぐり、武田軍は軍旗を掲げた。陣地(陣取り)をめぐり「決戦」か「一時撤退」か、二つに分かれた声は、陣地の水で濁り交わった。決戦を前に陣地の水が、武田の陣地と山縣の陣地を交わしたという訣盃の跡には、いくつかの伝説がある。ここに清水寺井戸は、その一つである。  
「武田・山縣軍へ、陣地が水で濁り交わった清水寺井戸が武田の陣地と山縣の陣地を交わした。清水寺井戸は、その一つである。」  
清水田・菅野家  
設楽原をまもる会  
平成28年仲夏 武田がな日た



【武田諸将訣盃跡へのタイムスリップ】: 井戸を探してみましよう!

① 訣盃の跡  
・武田諸将訣盃の跡  
八束穂 清井田  
清井田に清水わく



・武田4将の馬場信房・山縣昌景・土屋昌次・内藤昌豊が、明日の決戦を前に、戦の場所を見置き、清井田の清水湧き出る泉に集まり、今生の名残の決別の水盃を交わした場所です。訣盃の跡には、二つの伝承があり2箇所あります。  
・武田4将は武田家の為に命を捧げました。武田4将の生きざま精神を現代に伝えたいと思います。もっくる新城のドックラン チワワ竹内コロンです!

もっくる新城は、奥三河観光のハブステーションの役割を担っています。

【火おんどり】

採火された火おんどの火⇒⇒



① モッセモッセ  
ヤーレモッセの火踊り

・竹広信玄塚

② ふしぎにも蜂の  
大群姿けす

・大塚・小塚  
竹広 信玄塚

